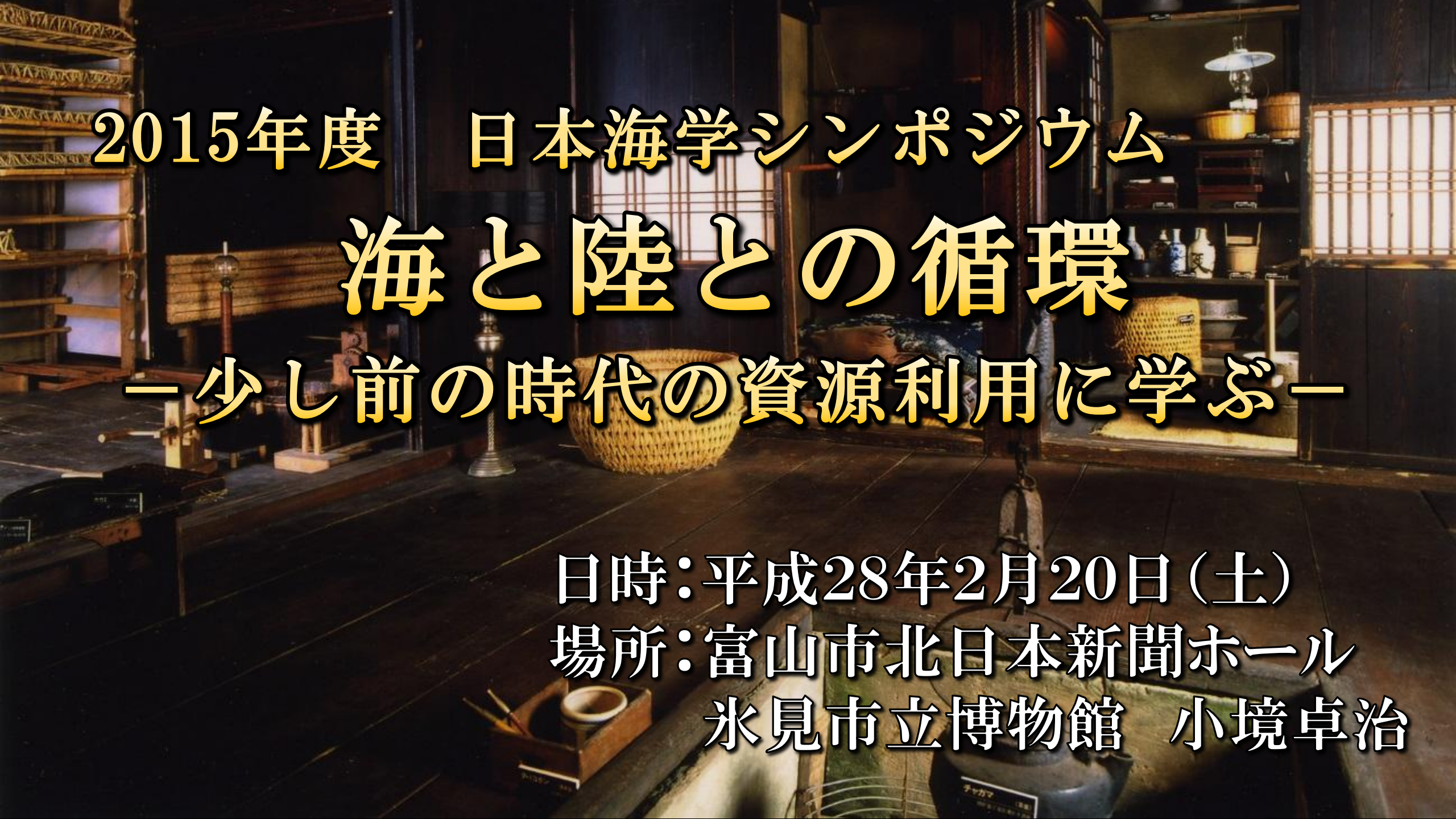




2015年度 日本海学シンポジウム

海と陸との循環

—少し前の時代の資源利用に学ぶ—

日時：平成28年2月20日（土）

場所：富山市北日本新聞ホール

氷見市立博物館 小境卓治

定置網用具及び製作修理用具

(国登録有形民俗文化財)



加工販売用具

（国登録有形民俗文化財）



船大工用具

(国登録有形民俗文化財)





「三重落し網」構造をもつ最新式の大型定置網
(越中灘浦「前網大敷」)



置漁業組合殿

型

重落し網 (モデル前大)

800

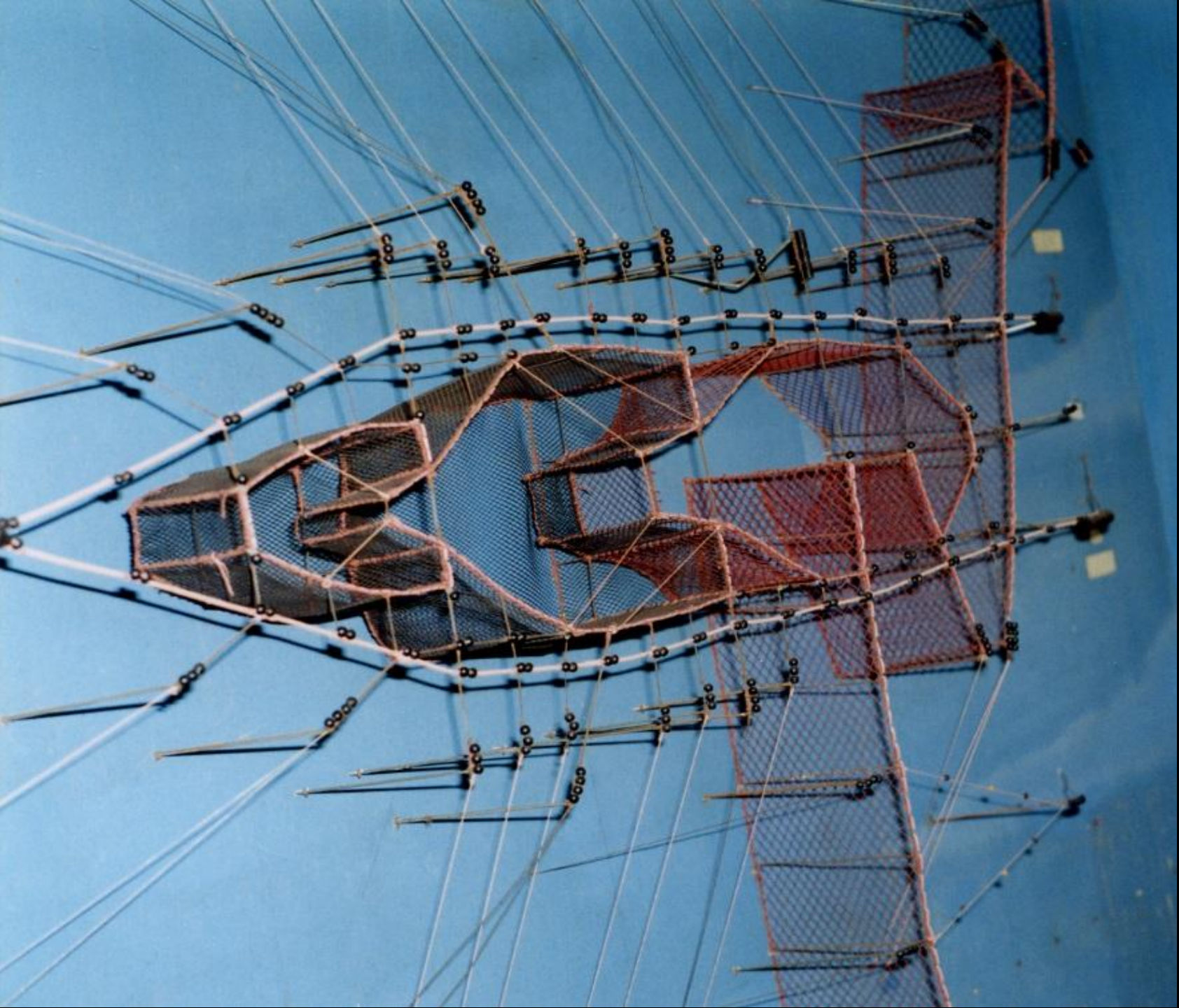
製網株式会社

11年3月吉日

水深80m~85m

台~矢引き 約600m

「二重落し網」構造の大型定置網
(能登灘浦「岸端大敷」)



灘浦大敷でのカワハギ(ウマズラハギ)の大豊漁
(昭和59年)



灘浦大敷でのイワシの大豊漁
(昭和40年代頃)



灘浦 前網大敷」でのサバの大豊漁
(昭和38年4月13日)



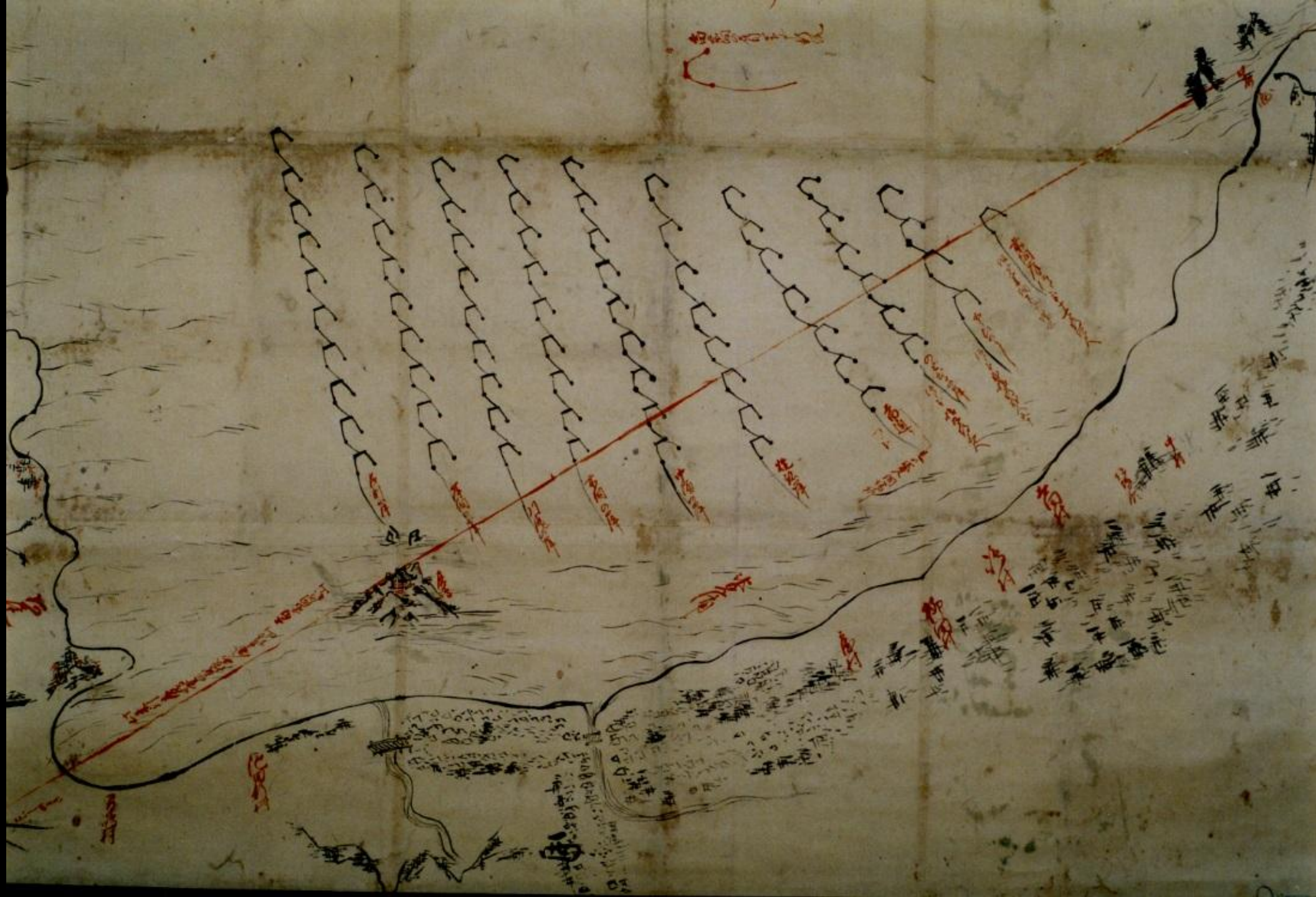
大敷網（大型定置網）でのブリの水揚げ
（昭和20年代頃）



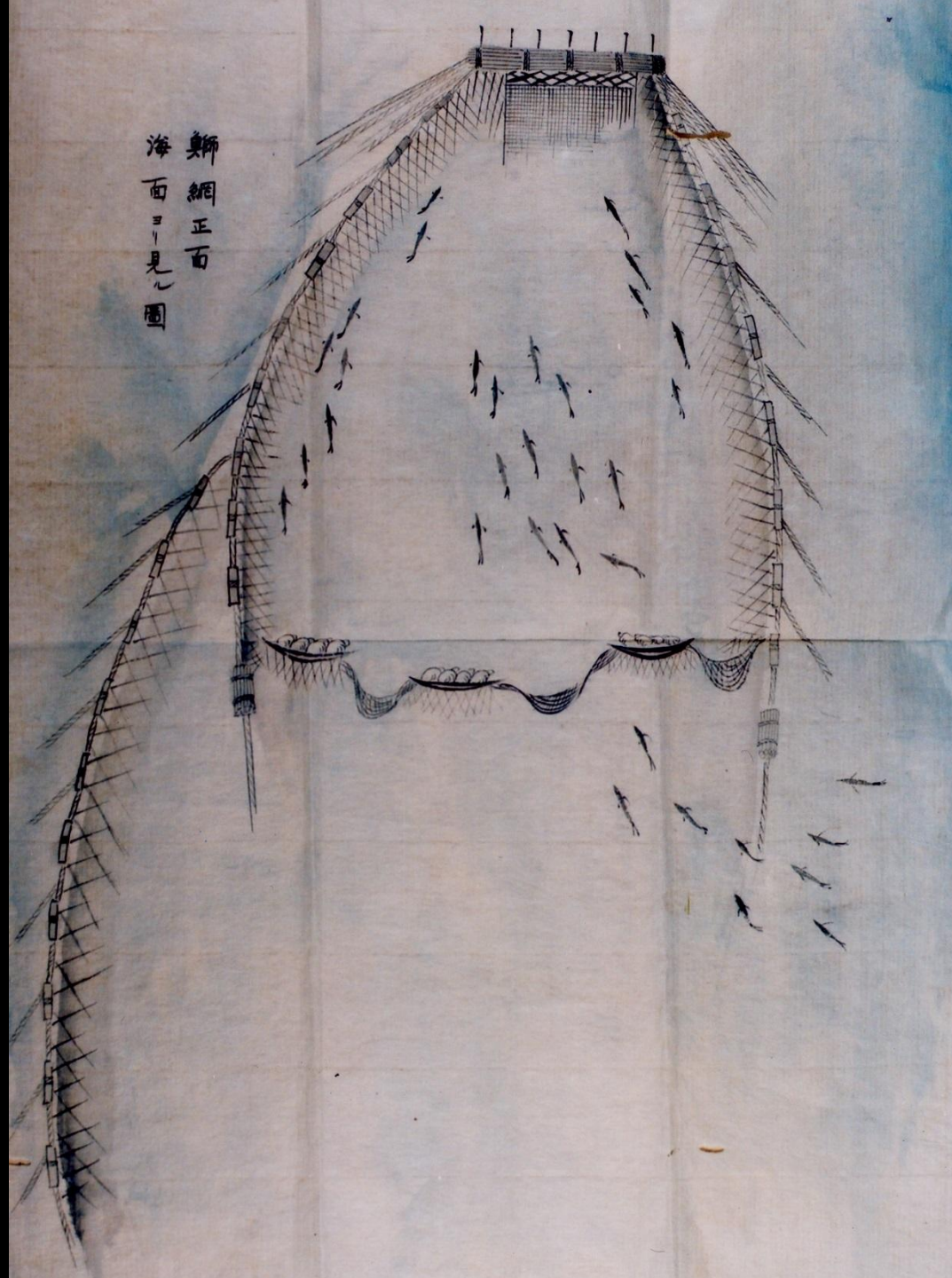
上庄川河口北の橋近くに水揚げされる
大型のオオタロウ（昭和9・10年頃）



10岸72力統の網場が記された
氷見浦秋網（鮒網）網場図（近世後期頃）



秋網（鰯網）平面図（近世末頃）



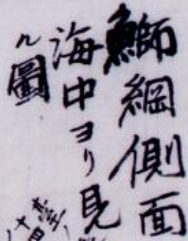
鰯網正面
海面より見る
図

秋網

（鮓網）

側面図

（近世末頃）



定置網の魚取り部に用いられたワラのニゴ製織網



垣網（道網）にするため堅縄を編む漁師
（昭和30年代頃・灘浦阿尾）



網おもり用に石俵をつくる女衆
(昭和30年代頃・氷見漁港)



台網（定置網）の網うきに用いられた
ロクハン（杉の割り材）



「大敷網」の出現

76

77

78

79

80

大敷網の網うきにするため2間竹を束ねる漁師
(昭和30年代頃・灘浦中波)



大敷網の敷設に向かう無動力のテント
(昭和30年代頃・灘浦中波)



おもに鰯網の敷設と網取りに用いられた
氷見のドブネ
(昭和30年代頃)



陸に引き揚げられた能登のドブネ
(昭和55年・石川県穴水町古君港)



氷見沖での夏網（鮐網）の網取り。ドブネの上には
見張り用のヤグラが立てられている。（昭和30年代頃）



氷見沖での夏網（鮐網）の網取り。
寝泊り用のノマを積む（昭和30年代頃）



網染めのための柿渋づくり
(かほく市海と渚の博物館)



柿渋に染められる綿糸網
(かほく市海と渚の博物館)



イワシのペ粕の日干しと出荷の荷姿
(かほく市海と渚の博物館)



ワラで編まれたバンドリ（背蓑）



ワラで編まれたドウマル（腰蓑）

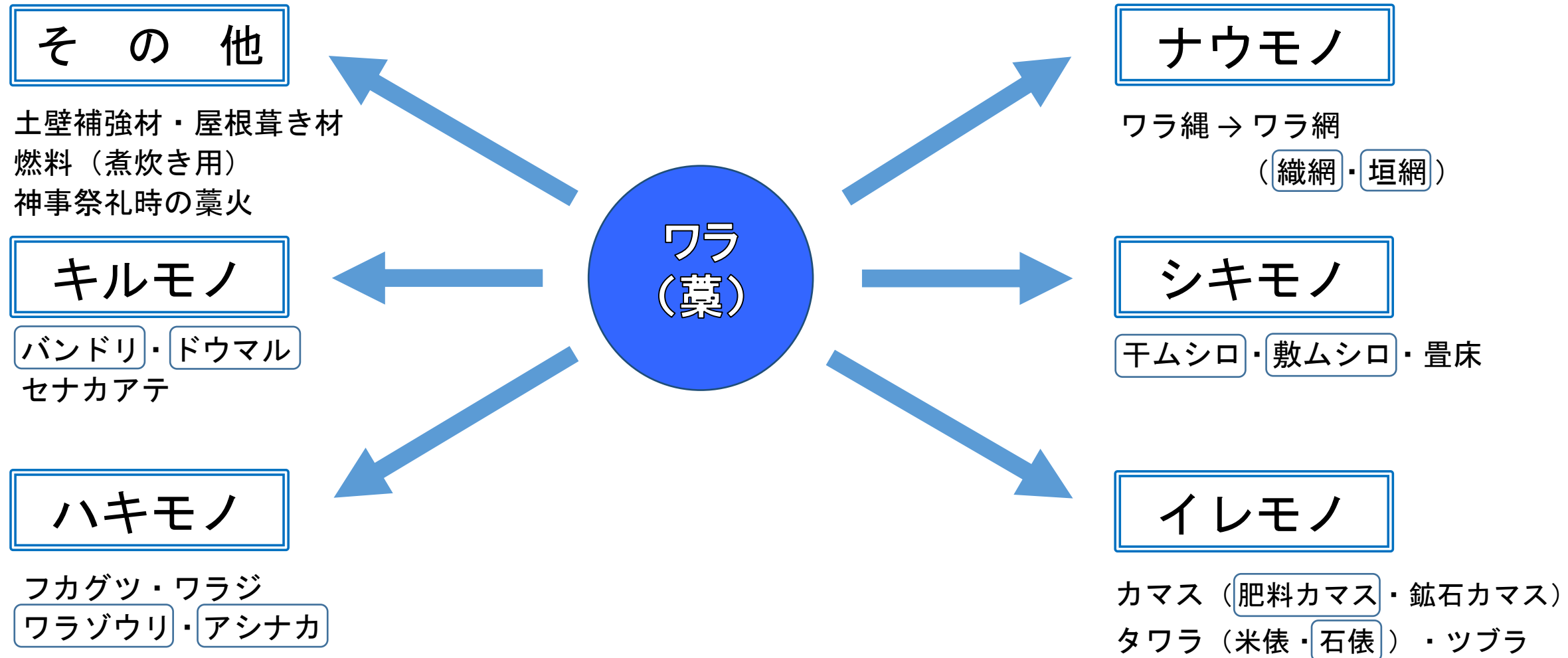


国登録有形民俗文化財が多数展示される
氷見市立博物館



お手を触れないで下さい

ワラの多様な用途



「海と陸との循環」まとめ

